ひよっこ〜れぽ 【患者状態観察と報告研修】

”患者の理解につながる情報収集力”” 患者の状態に合わせた観察・アセスメント力”“報告・連絡・相談する力”を養い、PNS パートナーと共に安全な看護を患者に提供できるよう、6 月 15 日・21 日・29 日に「患者状態観察と報告研修」を開催しました。新採用者と中途採用者あわせて 67 名が参加しました。

【目的】
- PNS パートナーと共に、安全な看護を患者に提供できる

【目標】
- 情報収集し、患者状態を把握できる
- 患者の観察項目がわかる
- 患者状態をアセスメントできる
- PNS パートナーに自分の考え（アセスメント）を報告できる

●SBAR とは●　check!

Situation:**状況**（患者に何が起こっているのか）
Backguround:**背景**（患者の臨床的な背景）
Assessment:**評価**（問題に対する自分の答え）
Recommendation&Request:**提案と依頼**
（問題に対する自分の提案、何をしてほしいか）

●研修内容●

あなたは狭心症の治療目的できた”イカリユウトさん”の受け持ちです。まずは情報収集から始めましょう！

あなたはパートナーとナースステーションにいます 11:10 頃、碇さんからナースコールがありました。碇さんの病室に行って対応をしてください。

●演習 1：電子カルテから情報収集

Q1:どのような患者ですか？　　Q2:何を観察しますか？

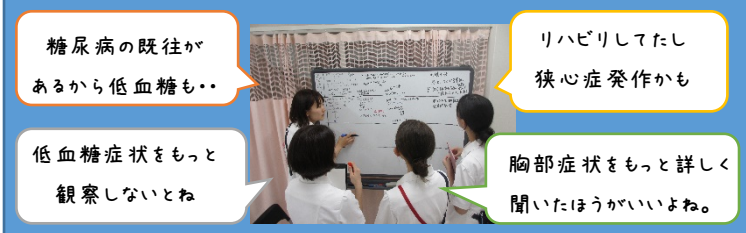
Excrl シートで作成された電子カルテ画面の患者情報から情報収集を行い、観察内容についてディスカッションしました。

●演習 2：患者対応

実際に患者さんを“看る”だけでなく“聴いて”“触れて”行う観察やアセスメント、状態に合った対応など学習をしました。

●演習 3：ディスカッション

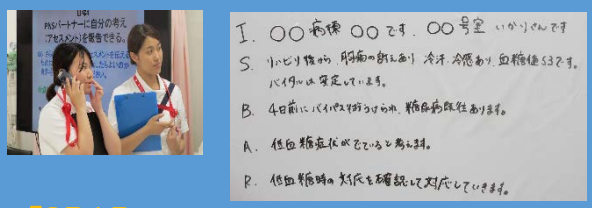
Q3：他に観察が必要な項目はありませんか？
Q4：碇さんに何が起こっているのでしょうか？



ディスカッションを通して、メンバーの意見から“観察項目”や“アセスメント”について、自分ができていたことや、不足していたことに気が付くことができました。

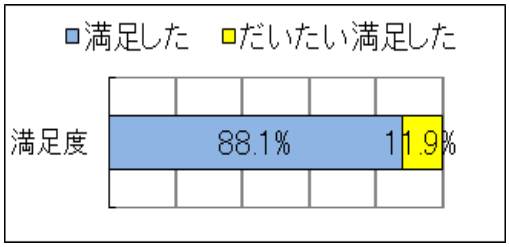
●演習 4：報告

Q5:簡潔に状態やアセスメントを伝えるには、どのような報告をしたらよいでしょうか？



「SBAR」での報告について学び、実践しました。　まだまだ難しいですが、自分の考えも報告することができました。

●アンケート結果●



●今回の研修へのご意見・ご感想●　Check！

- 患者状態を把握し対応に繋げるために情報が必要だと理解できた。
- ポイントは理解できたが、複数患者を受け持つと難しいと感じる。
- 症状やデータからアセスメントできたが、他者の意見から自分に不足している所がわかった。
- 症状などから疾患と繋げてアセスメントできるようになりたい。
- 気になったことや不安なことはパートナーに相談していこうとあらためて思った。
- 今まで状態報告ばかりだったので、アセスメントや提案も合わせた報告・相談をしようと思った。

●病棟の皆様へ●　Check！
（☆集合教育と OJT の連動）

☆相談を行っていれば、防げたインシデントが発生しています！「分からないことは報告・相談すること」「自分の考えを含めて報告すること（SBAR での報告）」を指導しています。新人看護師に対して「SBAR」を意識した報告を促してください。報告のタイミングが良くないことや、内容が不足していることがあるかもしれませんが、まずは部署で報告・相談しやすい雰囲気作りを行い、報告できたことを褒めて下さい。報告・相談しやすい環境であれば、インシデントを防ぐだけでなく、新人の不安軽減にも繋がります。研修での学びを定着させ、実践に活かせるようにご協力ください。

作成者：看護研修センター　三浦 哲